

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	Kビジョン株式会社
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>①地域のブロードバンドと放送の設備基盤を持つ当社の立場からは、「光の道」で示されているような、光アクセス会社による光設備の全国整備にかかる費用について、国費やユニバ基金等、国民に負担を課してまで進めることには賛同しかねる。</p> <p>②地域のブロードバンドの設備については、CATV各社・大手通信キャリア・電力系事業者等が、地域のニーズを見極めた上で整備を進めており、コスト効率性を考えても、このような従来の枠組みを生かして進めていけばよいのではないかと考える。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>①電子政府や、医療・教育といった分野においてICTが活用可能となるアプリケーションの構築も必要であるが、より切実なのは、高齢化が進む中で、高齢者にも使い勝手のよい端末インタフェースの確立、端末価格の低廉化など情報リテラシーを確保することだと考える。例えば、今のWINDOWS端末は必ずしも使い勝手がよいとはいえず、より簡便なインタフェースを構築し普及させる等、地域における需要を掘り起こしていくための対策を講じることが、今後のブロードバンドの発展にとって重要と考える。</p> <p>②「光の道」構想についてはさらなる国民的論議が必要であり、拙速に結論を出すべきではないと考える。</p>